

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第28回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会	期間 2015年 3月 27日(金)～ 3月 30日(月)
開催地 東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	会場 東京体育館 他
参加者 工藤 由佳	所属地区名 帯広地区
講師 Cグループ 中嶽 希美子 氏 福岡 敏徳 氏	
<p>実技研修、座学研修等の記録</p> <p>より良い位置取りを意識し、正しい位置から正しいタイミングで判定ができるよう、2パーソンでの研修を行った。</p> <p>○ハーフコート分解練習(2パーソンで2on2、3on3)</p> <p>○モデルゲームを使用した2パーソン研修 主審 加藤 加織 氏(滋賀県) 副審 工藤 講評 福岡 敏徳 氏(本部・長崎県)</p> <p>・A級として常に見られているという意識をもって取り組んでいくことが大切であり、このゲームではその姿が見られた。主審として今後ゲームを任されたときのゲーム運営や相手審判との協力を考えていく必要がある。</p> <p>特に、相手審判が力を発揮できるようにリードしていくのも上級審判の役目なので、今後はその点でも意識して取り組む必要がある。</p> <p>&lt;感想&gt; 相手審判と協力しながら視野の分担をすることができたのはよかった。ベストポジションで判定するという点については、完璧なポジションまで行き着いていないケースがいくつかあった。A級として、必ず判定しなければならないものを絶対にこぼさないことも必要だった。</p>	
実践実技1	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2015年 3月 28日 (土)	対戦カード 女子nリーグ 愛知 vs 大分
主審 工藤 由佳	副審 武藤 拓馬 氏 (山梨県 公認)
ゲーム前のカンファレンス内容	
・2人の視野の分担、ラインの分担、リードが右へ行く場面、3番エリアと6番エリアの見方と協力について、オールコートディフェンスへの対応について確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 稲田 篤 氏 (鳥取県 次期A)	
<p>・2人で協力して、とても良いゲームだった。</p> <p>・プレスのとき、2人の距離があいてしまうことがあったので、リードがもう少し上がって見たほうが良い場面があった。</p> <p>・相手審判をリードしながら、適切な場面で笛を入れるなど、主審としてよくゲームをまとめていた。</p>	
ゲーム感想	
2人で協力しながら1ゲームを吹くことができた。アドバイスにもあったように、プレスへの対応や、ハーフコートでのエリアの分担など、2人のコンビネーションの部分でもっと途中で修正をできると良かった。	
実践実技2	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2015年 3月 29日 (日)	対戦カード 女子準々決勝 宮城 vs 山梨
主審 工藤 由佳	副審 砂川 卓嗣 氏 (沖縄県 公認)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<p>・エリアの分担について</p> <p>・フロアバランスやプレーに応じた協力について</p> <p>・時計や表示物の管理について</p> <p style="text-align: right;">など</p>	

<p>ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 安藤 剛 氏 (大分県 A) 田邊 真由美 氏 (本部・兵庫県 AA)</p> <p>・トレイルの動きで、相手審判がとらえきれていないときに、もう1歩2歩ペネトレイトして見ると良かった。 ・よく動いて確認したうえで、鳴らさずに選手にプレーさせたのが良かった。しかし、その中で責任と影響があったファウルは1つ吹くべきだったものがあった。 ・1本調子でコールしているので、ジェスチャーやコール、間の取り方を工夫したほうがよい。</p>	
<p>ゲーム感想</p> <p>2人で協力して吹くことができたが、視野がかぶってしまう場面があったので、相手審判と途中で話をしたり、カンファレンスでもっと確認しておくべきだった。前半と後半でディフェンスが変わった場面での対応が少し後手になってしまった。もっとはやく状況をとらえて基準を示していかなければならなかったと思う。</p>	
<p>実践実技3</p> <p>日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など</p>	
2015年 3月 30日 (月)	対戦カード 女子決勝 埼玉 vs 神奈川
主審 福岡 敏徳 氏 (本部・長崎県 AA)	第1副審 山内 正隆 氏 (長野県 A) 第2副審 工藤 由佳
<p>ゲーム前のカンファレンス内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターレフェリーがとらえるプレーの確認</li> <li>・視野の取り方、角度について</li> <li>・責任エリアの確認について</li> <li>・ローテーションの確認について</li> </ul>	
<p>ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 望月 公平 氏 (広島県 A) 石川 淳也 氏 (大阪府)</p> <p>点数差はあったが、両チームが最後まで頑張り良いゲームだった。審判3人の持ち味が発揮され、主審の基準づくり、ゲームのまとめ方が良かった。センターレフェリーからリバウンドプレーを判定したものは、3パーソンの良さが表れていた。 トレイル、センターのときにもっと積極的に判定したほうがよかった。特にセンターのときには、フリースローラインの延長付近で立ち止まっているのではなく、動きが必要だった。</p>	
<p>ゲーム感想</p> <p>初めて全国大会の決勝の舞台に立たせていただいた。3パーソンのメカニクスについては、視野のあて方、プレーの見方、エリアの分担に迷いがあり、プレーをとらえるのが遅くなってしまったときがあった。講評でもあったように、もっと積極的に判定しに行くことが必要だったと思う。ルールに照らし合わせ、1つ1つの判定を確信をもって行っていくことが求められているが、吹いた場面、吹かなかった場面、両面において、その点を突き詰めていく必要があると感じた。相手審判の位置を確認しながら、自分のエリアを意識して見れたことは良かった。また、落ち着いて決勝のコートに立ち、1ゲームを終えられたことは自信につながった。</p>	
<p>まとめ</p> <p>今回でこの大会に参加させていただくのも4回目となりました。A級審判として活動してから2年近く経ち、最終日のゲームを担当することを目標に大会に臨みました。今自分もっている力を最大限に発揮し、女子決勝の割り当てをいただくことができたのは、大きな自信につながりました。しかしながら、ゲームマネジメントやよりよいポジションでの判定を追及することなど、課題はたくさんあります。プレーの判定のみならず、時間の管理やゲーム運営などいろいろなところに気をつかいながら、どんなゲームでも任される力をつけていきたいです。そのためには、日頃の実践を積み重ね、レベルアップをはかることが大切だと思います。感謝の気持ちを忘れず、バスケットボールに携わるすべての人々のために努力し続けていきたいと考えています。 最後に、このような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。</p>	